



★特集(3) ファッションを創る  
神戸のファッション・メーカーを探る  
K・K エウル

## 素朴な編物の味を 大切にしたい

昭和三八年にブラウスを主体に出発、四二年からニット一本に進んできたメーカー。自家工場を持っているのが強み。見本が早く、後のフォロワーがきくので小売店にも喜ばれているようだ。この春デザイナー学院を出たばかりのデザイナーも、「製品の出来上る行程がよくわかるので恵まれています。各個人の意見も入りやすく、何点かの内一点、その人のものとしてデザインしてほしいとまかされるので、やりがいがあります」とふくらむ夢を語る。ニットには横編みと丸編みがあるが、ここは横編み中心「現在は丸編みがニットの主流のようになり、編物の感じが薄れてきている。小さい頃オフロさんが編んでくれた素朴な味を大切に、ほんとのニットらしい、セーターならセーターの機能を十分にそなえたものを創



っていきたい」と二七歳の専務さん。今年の秋は深みのあるおかつ柔らかなさのあるワイン・カラーを充実して、着やすく、かわいさをプラスしたデザインが多い。



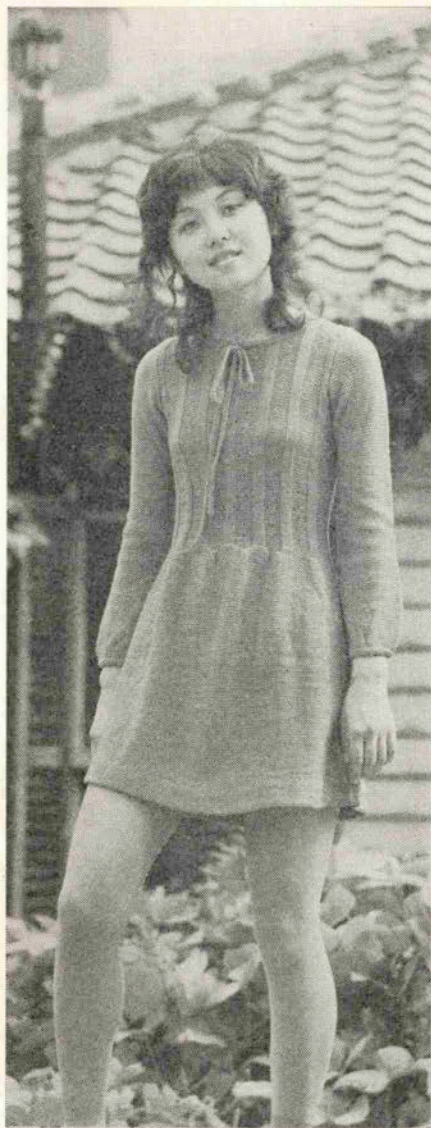
六甲の自家工場。左から2人目新井正治社長(47)、3人目谷口賢二専務とデザイナー。



★特集(3) ファッションを創る  
K・Kエンパイヤ

## 神戸のにおいを大切にした ファッションを

加納町4丁目の裏筋に入ったら目立たない感じの株式会社エンパイヤがある。建物が古めかしいのに比べ、オリジナリティが強いニット商品に感心する。糸からの開発にも力を入れて、どこにもないフィーリングをとデザインもすべてオリジナル。スーパーよりは専門店を重視。神戸の土地の持つ雰囲気大切に、その匂いをだしたものをと専務の杉田耕三さんをはじめ7人の若いデザイナーが頑張ってユニークで面白い商品作りをしている。杉田さんが好きなシルビールタンの名を取ってかわいそばかすの女の子のマークが売りもの。「バルタン」というブランドは、流行を取り入れたヤングカジュアルでミニベストなどに楽しい動物や果物が織り込まれていたりする。全体のデザインよりはオリジナルな編み方によ



デザインルームにて、右から3人目、専務の杉田耕三さんと企画・デザイナーのみなさん。

る研究が進んでいるのも特色。「エンパイヤ」は女らしい明るい商品が多い。昭和27年に創立だからかなり古い。その伝統がデザインや素材の深みを表わしているようだ。





★特集(3) ファッションを創る  
オールスタイルK・K

## 世界性のある ブランドづくりへ

「ファッションとは未来への挑戦ですね。時代とともに流れ、社会とともに変化する。その変化を表現するのがファッションでしょう。服装の革命は女性解放であり、女性美も時代と共に変わっていますよ。現在、多様化時代から、整理段階に入り、各社ごとオルガナイザー的な役目を果して特色あるメーカーに育ってきました」と熱っぽく語る山中常務さん。設立は昭和三十年十二月だからニッシンとともにニットメーカーとしては古い。神戸下山手通りから、三宮駅前。そして元居留地のアメリカ領事館西にある五階建のオールスタイル(川上 勉社長)は、活気にあふれている。ご存知「プリンセスワルツ」から「キャパスター」「エルジューン」「バンボーレ」「レオワルツ」「ヴィルビル」etc、とブランドはタイプ



▶ヤングパワーのデザイン・スタッフ

別に非常に多い。カジュアル路線の追求が今秋から春へのねらい。特にアダルトな(大人の)タッチで表現するとか。社員は二百名、平均年齢二十三才と、ヤングパワーが支えている。このエネルギーが世界性のある商品づくりへのあゆみを進めることになるだろう。



★特集(3) ファッションを創る  
木村坦株式会社

## 日本で最初の ベビー服づくり

今から五十年前、子供たちはきもので遊んでいた。居留地に住んでいた外人の子供たちのベビードレスを見た木村坦さんは、きもの子供たちが今に洋服を着るのと同じで、見よう見まねでベビー服を作った。それを大阪三越へ持って行くと「面白いナ。うちにおこか」と、日本で初めてのベビー服が誕生したのだ。布引町にあった店は、加納町に移り、戦前から戦後へ全国的な木村坦株式会社(社長は現在木村彬氏五十九才)として今年年間四十億のトップメーカーとなった。「おとぎの国」(三才児迄)「フェアリーランド」(六才児迄)といえは世のお母さま方はよくご存じだろう。市民病院の南通に、三つのスマートな社屋はわかれ、社員四五〇名。清潔な洗濯したてみたいな雰囲気がある。神戸の土地柄を生かして、ハンドクラフトの刺しゅうやスモッキングを生かしたマ



かわいいベビー服に囲まれて企画スタッフと中央は木村喜彦常務。

ス商品を、五十名の女性がデザインしている。商品企画構成は二十五名の男性社員があたり、仏、伊と技術提携するなど、世界市場との交流も盛ん。可愛いベビー服にコンピューターのとりあわせが印象的だった。





★特集(3) ファッションを創る  
有限会社神戸服飾

## ミセスのための ファッション一筋

昭和28年10月ひまわり商会として創業、だから古い。その時から数少ないミセスものブラウス一本で勝負してきた変わり種。昭和32年有限会社神戸服飾となり、ブランドは「エーワン」と名付ける。社長の浜本積広さんは、ダンスの先生やらマスコミの仕事やら手掛けてきた、この業界ではちよつとユニークな人。港町のセンスと縫製を大切にしている。デザイナーは職人気質の社長の奥さんが、エーワンの個性を固く守っている。その他はほとんど外注である。昔は刺しゅうを芦屋の婦人方が趣味で刺したものでそこから上品な神戸らしいセンスが生まれたものだそう。ミセス専門エーワンの上品さはその伝統ともいえる。ミセスものは特にカッティングやオーダーから出たデザインなどこまかい事に気を使っているそう



だ。着てみて違うのがエーワンのよさとか。社員は16名、とても家族的な雰囲気で大切に一枚一枚を創っているという感じ。今の時代にはめずらしい存在である。



会社の玄関で、左から4人目が社長の浜本積広さん5人目がおくさん、左から2人目が専務の浜本務さん。



★特集3／ファッションを創る  
シャロンK・K

## 女の子の夢を織り込んだ 着てかわいいものを

花隈のしだれ柳をくぐって入口のドアを開けると、若者が自分の仕事をつかんでいる活気がはねかえっていた。「シャロン」はイトキン・グループ営業十六社の一社として昭和四〇年創立。二年程前、アメリカン・カジユアル調を主体にイメージ・チェンジ。東京にも研究機関と製造スタッフを持つ。製品はブラウス、ワンピース、スカート、ボロシャツ、ジーパン、半コートと巾広いが、十八歳のかわいい子に着せようというのが絶対のポイント。デザイン数が非常に多いのも「動揺しやすくて冒険心の強い、健康でキャッキャツとしたおもしろい女の子に合う、そういうおかしな商品構成」なんだそうである。刺しゅうから出発した強みを生かしてバラの刺しゅうやイラストのワンポイントものが多い。イラストを見



シャロン・ビル1階ディスプレイ・ルームで、中央座っているのが広瀬久吉所長。キュートな女性3人がデザイナー、男性2人が企画マン。

て「漫画的なものが多いですね」といったら、「それこそシャロンのムード、いる人も漫画的」との答えが返ってきた。広瀬所長に似た(?)漫画風の犬がアイドル。







★特集(3) ファッションを創る  
K・K J A V A

## あらゆるファッションを 創り出す

ファッションメーカーの多い熊内町にあるJ A V Aは3カ所に別れていてそれぞれ新しい感覚の顔を持ったオフィスがある。企画部では、自由な雰囲気、感覚エイジの集団ともいえる若手スタッフ45人が大活躍している。昭和39年K Kジュニアとして創立。45年にJ A V Aとする。46年9月1日B E B Eという子供服の別会社を設立。エネルギッシュに活躍する社長の細川数夫さんは、電話では50才ぐらいの貫録ある紳士と想像してたら、30才のとても若いファッションナブルな男性だった。

愛車アルファロメオで飛びまわりご多忙である。マニッシュな装いを個性としたアメリカンカジュアルのシャツブラウスやヨーロッパタイプのブティック的なファッションとを創り出している。多様化ファッションは大



近所の公園のブランコで、ワイワイと集まった J A V A のデザイナーの人々。

衆化しマスファッションとなった。この冬は、ミニ・ミモレ・ミディ丈をデザイン。お好きなものを選んで下さいとのこと。



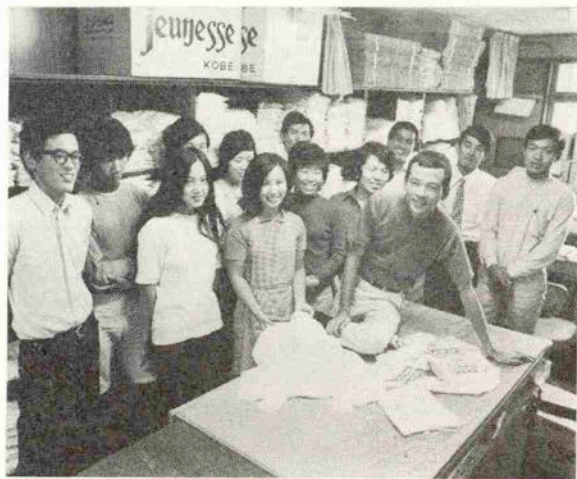
★特集(3) ファッションを創る  
K・K ジュネス

## 夢のある 刺しゅうをあなたに

かわいい小鳥や花・お人形・森などが手刺しゅうされた紺地のスカートや、おとなしいデザインで中間色の色を使ってやさしく刺しゅうされたブラウスを見せて下さった。ミセスのカットワークブラウス。カジュアルを卒業したい人達の感覚が織り込まれている。昭和39年創立、41年4月にKKジュネスを山本通りに設立。社員は15名。社長の柏木幸也さんは30才の若手社長。営業マン、デザイナーとも若くて、すっきりしたセンスで大人のイメージ。

大事に創って大事に売るのがモットーで手芸的な夢のあるオリジナルな商品が多く、神戸では独占的な存在であり、商店では、手に入らなくて困る程よく売れている。流行にあまり関係なさそうなのも特徴。ジュネスの

オリジナルを頑固に守れる会社である。写真を撮る時、無口そうで取っつきにくい社長さんがなぜか一番のつてたのでとてもびっくり。



山本通りにあるジュネスの商品箱の前で、机の上ののっている方が社長の柏木幸也さん(33才)







特集(3) ファッションを創る

東洋ドレスK・K

## エレガントな 女らしさを求める

熊内5丁目の山側の急な坂道をあがった所にKK東洋ドレスのビルがある。昭和30年に有限会社東洋ドレスとして発足。昭和31年10月に株式会社となる。社員は42名。東京に支社もある。社長の山田萬子さんは着物姿で現われた、粹なおばさまである。興味を持って聞くと、ころによると、家庭生活18年の後、独身となって43才で趣味のつもりで始めたそう。洋服が好きで好きで、いつも流行の先端を行くような服を着こなしたモダンガール。そんなセンスがこの仕事と結びついた。ブラウスのカットワークはここが発祥。ブランドは、「東洋ドレス」が上品なブラウス。「アナキャット」はヤングカジュアル。新しいファッション創りで、時代の先取りをとねらうのが「ジャミー」。「ジェルム」はスカートやパンタロン、



コート。エレガントな女らしさをたえず失わない商品がポイント。この冬はゆれ動くファッションをポリシーにデザインされている。



左から、企画係長の片岡さん、中央が社長の山田萬子さん、美人ぞろいのデザイナーの方々。



★特集(3) ファッションを創る  
ニッシンK・K

## 全国ニットメーカーの 草分け的存在

戦争直後、どさくさ時の昭和二十一年、糸の売買を始めた。糸が非常な貴重品の時代で金のやり場がない位儲かった。それをたまたま編んで持って来た人がいてまた非常に売れた。一般の人にバンバンの着るものと悪口いわれながらも、今日創ったら今日売れるという勢いだった。酒井社長は二歳の時に店を七、八軒持っていた程の若勞人らしいが、今はニコニコ温顔の方。初業時から洋服仕立ての手編みニット、ドルマンスリーブ、布地とのコーディネートなどアイデアを生かした商品を次々と生み出し非常な成功を収めた。ニットの草分けとして「神戸はいかにして良いものができるかを考えて創って来た。その積み重ねにメリットがあると思う」と岡崎企画課長。刺繍とレースの伝統を継いだベーシックな「ニッシン」、カジュアルな「ヴィヴァヤング」の二つのブラ



広々とした企画室で、中央酒井利保社長、右から2人目岡崎均企画課長に企画室のメンバー。

ンドに、この秋からミラノリブの編み地を使ったコーディネートファッション「ヴィヴィアン」が加わった。トータル・ファッション時代に、これからニットに合わせたの意味で、積極的に布製品にもとりくんていく姿勢。





★特集(3) ファッションを創る  
K・K パール

## トータル・ファッションをめざす

昭和三十六年創立。カジュアルなPOPEとヨーロッパ調のPEARLブランドは、ブラウスが主体で、ジーンズで走ってる元気な女の子に合いそうなものとチロリアン・テープを使ったかわいいうちが多い。調達は松岡社長(36)、「ファッションは消費者の創り出すもの。消費者が次に何を望んでいるかを何よりの重点におき、その中でパール・カラーを出して行く。先取りしすぎていけないし、商品が出て二、三カ月したら流れていくもの、よそがついてくるものを出さねば」奥さんがチーフ・デザイナー。「自分の肌で感じたもの、自分の着たいものを」と女性らしい意見。チーム・プレーでのぞむ。洋品店に行けば、その服に合ったヘヤー、靴、化粧品も選べるようになっていいのではと、この九月からイタリ



ディスプレイ・ルームで、中央が松岡賢蔵社長、その横が夫人の松岡誠子さん。デザイナーは洋裁学校を卒業したばかりの若手揃い。

アのベニスロンを素材にした「パール・ヘヤー」を婦人洋品店を販売ルートにして発売。これからのファッション・メーカーの方向としてトータル化をめざしている。



★特集(3) ファッションを創る

リーベK・K

## 専門店と手を結んだ 総合メーカー

ひょうたんから駒がリーベを生んだというから世の中面白い。『まさ』というブラウスの店を湊川、センター街とつくり、二、三年その仕人に苦勞し、奥さんのデザインで製品を苦しまぎれに作って、社長の飯田守さんが売ると驚く程売れた。オリジナルがいかに強いかということが製造メーカーになるきっかけになったのだ。創立昭和三十七年、来年二月で十周年を迎えるリーベは、フラワロード東のKR&AC南(金剛ビル)にあるが、年間十二億五千万円という会社で成長したのだから早い。神戸のメーカーの特色だが、これも全国四〇〇の専門店とルートを結んでユーズーサイドを非常に大切にしている。ブラウスは「リーベレース」スーツは「サンクレー」ニットは「ブレイキャッツ」「プリエ」。そして高級特選品の「パロウニン」とブランドと事業部を分けて、



デザイナーのヤング・ウーマンに囲まれて、リーベ飯田守社長

ブラウスメーカーから総合メーカーへの脱皮を計っている。デザインの特色は、品のよいキュートな安定性のあるもので先走りファッションでなく消化した個性を大事にしている。社員は神戸一二〇名東京二十八名。







★特集(3) ファッションを創る  
K・K ファミリア

## 子供がすすんで着るものを

いつもドアの開いている社長室の中央に一番大きなスヌーピーが椅子にとっかかりと腰かけている。スヌーピー・ファンとしてはすっかりうれしくなった。三菱信託銀行ビル八階、広い窓から港が一望できる明るいオフィスでお話を聞く——戦争で焼け出された坂野家は、夫人(専務・企画担当)が軽井沢の別荘に残っていた刺しゅう糸で手芸品を創り、好意で貸してくれたケースに列べたら四、五日で売れてしまった。以前から日本の育児が遅れていることを痛感していたので、何かをするなら赤ちゃんのためにしたいと、坂野夫人いわく「奥さんを働かせるのが好きな人たちが集まって」昭和二五年ベビー子供用品の製造販売「ファミリア」を創立した。ウーマン・リブの先駆け? 裸で生まれてくる赤ん坊は何が必要か。おしめ、おしめカバー、肌着、部屋着を基本に、外国との提携にも先駆け、ぬいぐるみ、家具類も揃えた。



全国各地に十四直営店、主要百貨店にコーナーを持ち、浩宮様、礼宮様、紀宮様も「ファミリア」で育った。子供のためになる、子供が着てかわいいものを、母親の立場に立って良心的な商品を開発している。



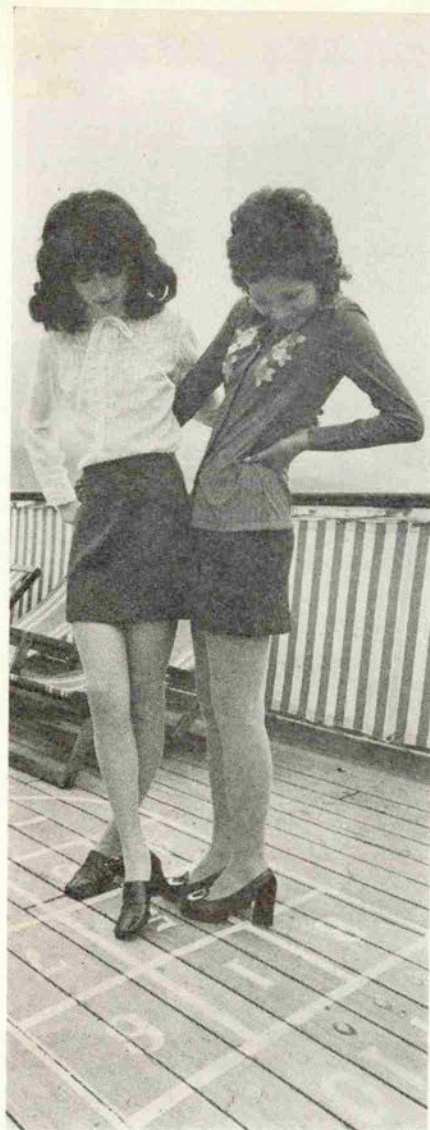
社長室で、右2人目から坂野通夫社長、アメリカから講師に招かれたバターン・デザイナー Mrs マーカー、坂野倅子専務。商品開発陣のヤングウーマンは英文科を出た人が多い。



★特集(3) ファッションを創る  
マスマイヤK・K

## 量産できない 手づくりのブラウス

戦後、三宮鬧市の衣料密売は活気を帯び、神戸は衣料品に関してはいち早く復活した。進駐外人を見て、手づくりの服を女の子は着て歩く。そんな昭和二十一年頃長田の本町商店街のかたわらに仕立てとブラウス製造の二本立て社長の高平幸次郎さんは、マスマイヤを開店した。現在は、商店街の中に、百人の人々がブラウスづくりにいそしむマスマイヤに成長。「SUM」のブランドは、スーベリヤ・ユートピア・モードと三つのイニシャルをとったもの。ハンド刺しゅうの神戸らしいブラウスが特色だが、量産できないので一品せいぜい百着ぐらいが市場に出る。マス生産できないのが魅力で出来上るとすぐ売れてしまう。今秋は、木ざらしの木綿や、フィットしたニットシャツなどにハンドクラフトしたものがよく出るとか。高平社長は「この業界は人より流行を先どりしな



右端は社長の高平幸次郎さん。ハンドメイドのブラウスの前に企画マンとデザイナー。

くてはいけなないので、男一人ではちょっと歩みにくいウインドショッピングを娘としたり、服飾雑誌などをみて、流行の大・小サイクルのくみあわせから何が次にくるか、感を働かせています」と語る。





★特集(3) ファッションを創る  
K・K マドンナ

## 優しく、清らかな マドンナのために

夏目漱石「坊っちゃん」に出て来るマドンナ、清く美しい人のイメージに合うような洋服を創りたいと「マドンナ」と名付けたとか。たしかにちよつと恥ずかし気な優しい女の子に似合いそうなブラウスやワンピースだ。

個人で五年、会社になってからまだ一年の若い会社は三宮駅北のビルの一室を明かるく広々と使っている。三〇歳になったばかりの清水善之社長ほか六人のスタッフは全員が営業マンでありデザイナーであり経理マンである態勢。残業・日曜出勤一切なし。「自由な雰囲気は家族的すぎるぐらい」とか。社内旅行は全員揃って四国へ釣。「流行は余り追わず、神戸らしいかわいさがあって、ブラウス個性的なものが創りたい。ブラウスはワンピースより縫製が複雑な割にコストは低いため、何年か先には



明るいオフィスに、7人のスタッフ全員がそろそろ。右端清水善之社長

手芸的なものになり、稀少価値になっていくのではないかと思えるが、ブラウス五〇%の線は崩さずにいきたい」とあくまでもブラウス・メーカーで進む意欲。



★特集(3) ファッションを創る  
K・K モード オリオン

## 新企画は社内全員で 創り出す

紳士もののネクタイの会社に入った社長の浅井義一(33)さんは、夏になると2カ月のヒマが出され、生活に不安を感じて、好きな神戸で婦人物製造卸をと始めたそれが昭和39年4月に創立のオリオン商会。昭和41年KKモードオリオンを宮本通りに設立。社員50名。デザイナーは13人いる。この秋の展示会では、アーミールツクが目立ったブラウスとアフターウエアとは半々。対象、は14、5才から22才までアメリカンカジュアルの「バギー」と、女性を意識したヨーロッパ調の「モード・オリオン」と2つのブランド。展示会を年間10回程やるのでデザイナーの人々は追っかけられ通しという忙しさ、社長の奥さんでチーフ・デザイナーの貞子さんの言葉では、社員は皆団結力があっていざという時、ガンバってくれるそ



オリオンビル2階ショールームにて、左から4人目社長の浅井義一さん(33)となりはデザイナーの奥さん。

うだ。

生きたものを生きた段階で売るという方式は、お得意さんと営業マンとデザイナーと全員で企画をねり、3拍子も4拍子もそろった企画を売り物としている。





★特集(3) ファッションを創る  
K・K モードリンダ

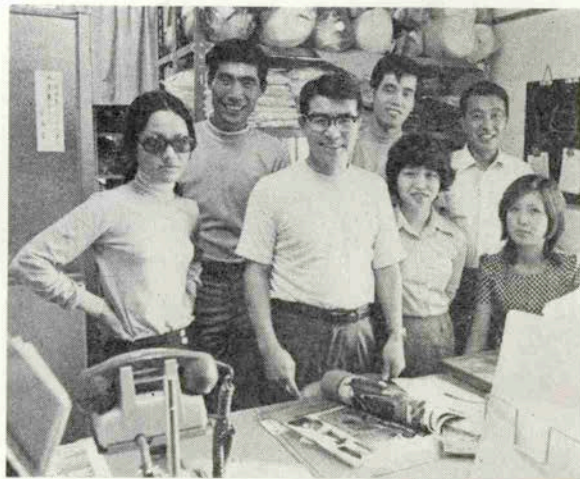
## かわいい女性を つくるために

神戸の女性が好んで着るブラウスにスモック刺しゅうがある。シンプルでやわらかい女らしいものを対象に作るモードリンダの特徴は神戸の女性の好みかもしれない。

あくまでもブラウスから変化発展したものを追求しているこの会社、昭和38年10月三浦商会としてブラウスを主体に発足した。44年にモードリンダを設立。棒タイプブラウスはここが発祥とか。新しい「ピエタ」というブランドは、多様化の傾向のファッションを創り出している。

創立のとき思いきって加納典明氏のカメラでポスターを創りそれがあがった。社員は全部で15名、一階が倉庫、急な階段があがると二階がオフィス。

社長の三浦幸衛さんは、うちは社員に還元する方なの



2階にあるオフィスで、左から3人目が社長の三浦幸衛さん、企画マン・デザイナーと。

で、と北海道へ社員旅行。来年はグアムかハワイかとの噂もあるとか。仕事をバリバリやるプロフェッショナル的な女性デザイナーと企画・販売とのチームワークもピツタリという。



★特集(3) ファッションを創る  
モニックレースK・K

## 和をモットーに ナイティづくり

キューートなキューートなネグリジェがいつぱいの部屋には、新しい傾向のスムース(ジャージでびったり身体にフィットする肌着でねまき、スイス商品と技術提携)やラウンジウェア(ネグリジェにもホームウェアにもなるもの)などがいっぱい飾られている。折り悪しく、雨宮社長さん(五十四)は静養中とあって営業の藤原さんをはじめ、デザイナのお嬢さん達がインタビュに答えてくれる。

「おしゃれ商品を扱う以上、流行を見てアウトウェアの先どりをするのが一番。今年は、ヤング層をねらって寝る前にパジャマの上に着るブラウスのようなラウンジウェアをぐっと伸ばしたいですね。デザインはあくまでも可愛い、可愛い。ていねいな縫製でね」と。『モニック』は、昭和二十五年にセンター街にレース専門店と卸からスタート。今でもレースは得意とお見うけた



カラフルなネグリジェに囲まれたモニックレースのデザイナーと営業マン

が、昭和三十八年下着メーカーとしてスタート。ニューポートホテルの北東への道を入ったところにある。和をモットーとする社風のモニック、日本に通用するブランドへとそのチームワークは固い。



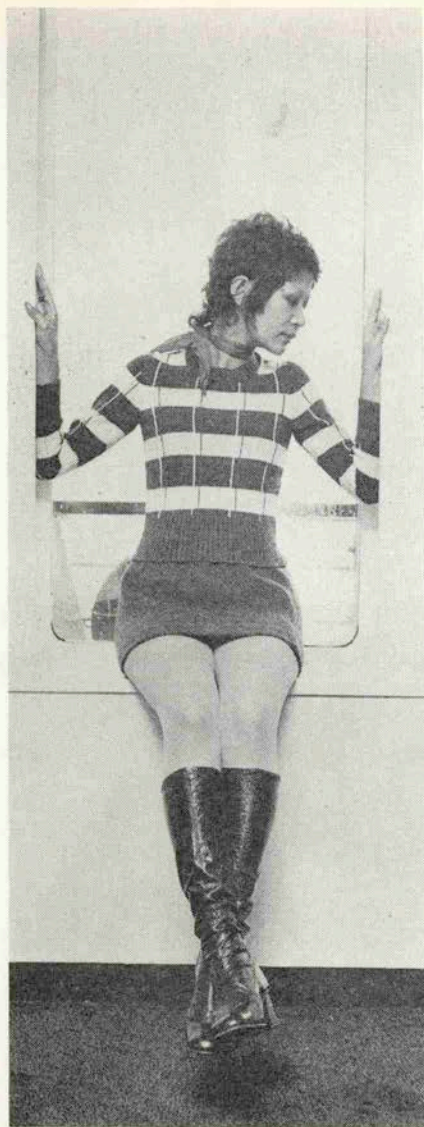


★特集(3) ファッションを創る  
K・Kワールド

## 女らしさを追求する ワールド調

三宮駅から貿易センタービルの方に向かって歩くと円型の塔にWORLDの文字が浮ぶ美しいデザインのホテル。「ここは女の城ですよ」と企画のシャーマンな女性大東さんの言葉どおり、一八〇名の内女性性が九五名、生き生きと働いている。昭和三十四年に創立した頃は、穴門筋に農業会館前から三年前、港の見える八幡通りの新社屋に移った。今春三月東京麹町に白亜のビルが建ったそうだから、十二年程で日本有数のトップメーカーとなった。

女らしさを求めて、甘さのある品の良さを基調にプレーンなワールド調が特色とは、いかにも神戸らしい感じ。ブランドは「ベルチカ」がプレーンな品のよいニット。「ワールドコーデイナイト」は、組合わけて着る楽しさが大変な人気。「マックワールド」「マック・シスター」はラフに着こなせるカジュアルックと四つに分けて、値段も研究し、自社の特長を大事に製作している。社長は



女らしさに挑戦するワールドの明るいデザインルームに集ったスタッフ。

木口衛さん(48)。「神戸という環境の中だからユニークなものがつくれるわけで、さらに一億ドル企業に伸ばしてゆき、よそに出来ない商品を持つ強い問屋になりたい」と若い畑崎副社長はファイト満々だ。

突然の  
変身が

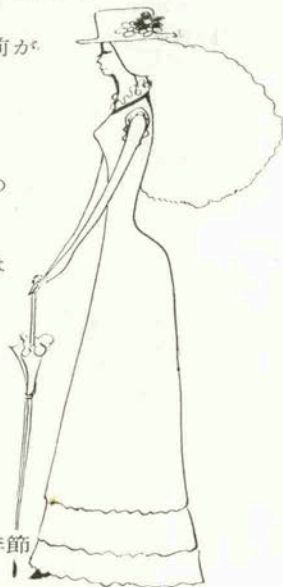
おれの心にどよめきを呼ぶ

デニムで駆けたお前が  
かくまでも  
あざやかに

夕暮に見るその頬の  
ベルベットの翳り  
ひるがえるもすそは  
おれの回転木馬

眼がくらむ魅惑  
熱い風

秋は  
ほろほろと  
エレガンスを蒔く季節



★おしゃれをしたらサヴォイで飲もう！

カクテルラウンジ

**SAVOY**  
サヴォイ

ホームパーティーでのカクテルの  
作り方を電話でお教え致します。  
お気軽にどうぞ。

TEL 331-2615

高架山側 テキの店北



酒 肆  
**Nouvelle**

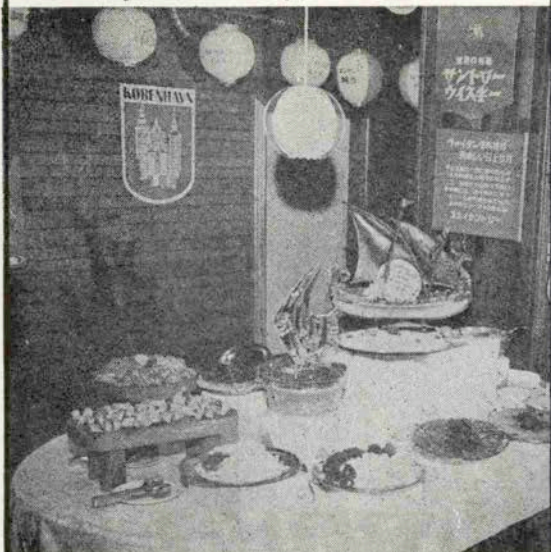
ヌベール

神戸市生田区北長狭通 2 丁目 14

Phone 331-9005



楽しい集いに！



〈北欧ヴァイキング料理〉

2000円〈税込み〉

飲みほうだい（サントリー純生ビール）＋食べほうだい  
クラウン・コーラ

一品料理、日本酒も準備いたしております  
同窓会など各種パーティにご利用ください



なごやかなムード

すばらしい眺望！

**スカイサントリー**

三宮交通センタービル 9F TEL(391)3705～6

アサヒビール特約代理店



●お酒の殿堂

酒類調味食品問屋

☎ 神戸酒類販売株式会社

本店・生田区中山手通1丁目76

TEL(078)321-0201(代表)

支店・西宮・垂水・兵庫